

一冊のトルコ語の古本から
—ユーラシアをめぐる人と本—

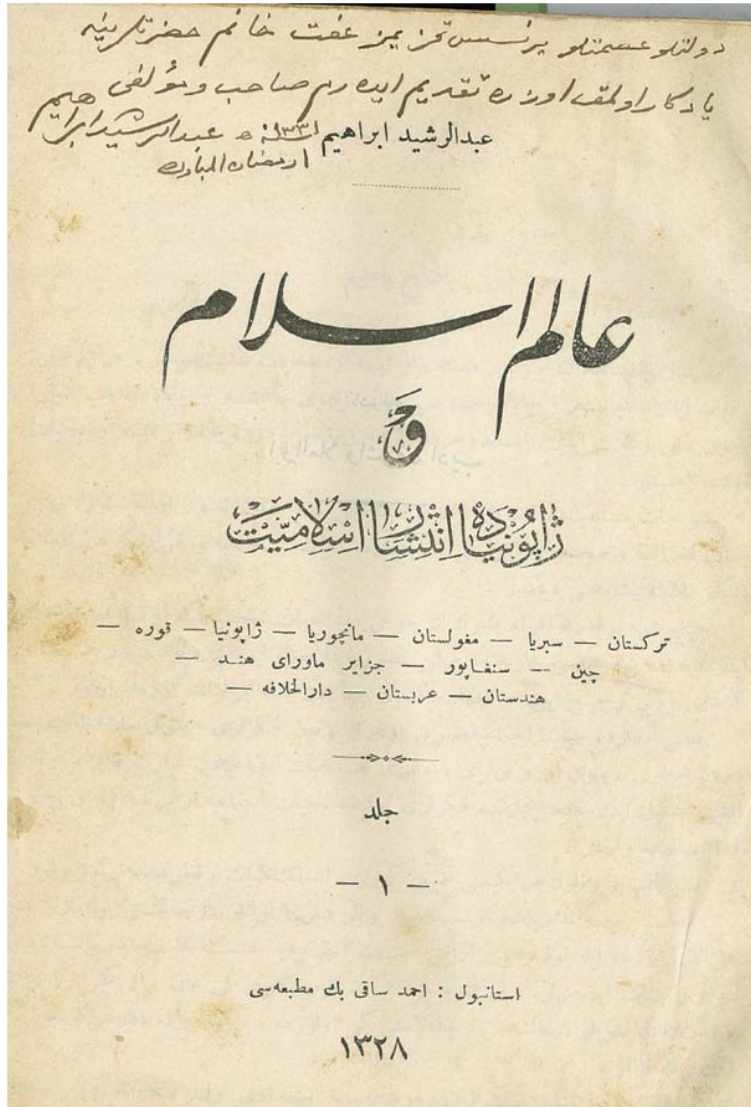
Academic Commons Project vol.2

2012年2月23日

小松久男 大学院人文社会系研究科

1. アンカラの古書店にて

・オスマン語の古書



アブデュルレシト・イブラヒム
『イスラーム世界』(イスタン
ブル, 1910年)

・クラト教授の蔵書



コミンテルン

『第1回東方諸民族大会
議事録』(1920年)

奉天のタタール語新聞 『民族旗』(1935-45年)

メルジャーニー (1818-89年)



حسین ایشکین سوداسی
 اوقیناوا قوروهی شهرنگ .
 تگلگه ن کییم ایرله روجاتون - قزلار
 اوچون ، سوقنا هم تره قه ماللار .
 "ISHKIN SHOKAI" OKINAWA
 "ISHKIN SHOKAI" KURUME

کینو شتاشوتین
S.KINOSHITA SHOTEN
 MANUFACTURE OF WOOLEN & COTTON
 10. 2-CHOME TANIMACHI
 HIGASHIRU OSAMA (OHTEDORI)
 TEL. NO. 5755 HIGASHI (24)
 羅紗製品卸商
木下三郎商店
 大阪市東区谷町二丁目
 電話番 (四) 五七五五番

ایچی دیکه برده حارینده یه شه وچی ایله شه
 زده ن ملنجی زاهدالله افندی اوعلی شیخ الله
 ن آغیش ، حارمین تشن دو قترلجی مکتبن
 درجه ده بولب تمام ابندی
 یله ریزگه اورنه ک یولرلق یوزورا وئیشی
 شیخ الله افندی بی تبریک ایته بز وکیل جه ک
 تله رنده موقیتله رتلیمز .

ن موگ . سز عزمی مهاد لور مننگ ساوسلامت
 یه بوئون ایشله رده موفق بولو وگزنی ایمانی کوکلر
 زایلنه ن الله کریم حضرتله رنه ن تله ب قالد مز
 ی بولباشیمز . سزله رنک یوملی اشدن آری تالمی اشد
 ده ن مقدس ملنگز چیکسز ممنون و شاد در
 تی ایشله رده ن ملنگز بیک راضیدر . قدری بابامز !
 بولرقلجی مهاد لورگز ، مانجوتیوه و چقاچاق (ملی
) حقن . یاخا ملی بول . مجموعه سنده اوقب بیل سو
 شادلانغ . سز دلهمز کوکره گمزگه بالقی ، شتو
 من بزلر . بولرقلجی تورک . تاتارلار شول یاخا
 ن . ملی بایراق دنی تبریکلیمز . مبارک اولسن
 بایراق در ، یاخا سمن ملی بول باشجیلاری .

2. イブラヒムの旅行記

『イスラーム世界：
日本におけるイスラームの普及』

・アブデュルレシト・イブラヒムとは誰か



- 1857年4月23日 ロシア帝国領内
西シベリア、トボリスク県に生
- 1944年8月31日 東京に没
- ロシア、オスマン帝国、そして日本
で活動し、ユーラシアを広く巡った
熱烈な汎イスラーム主義者

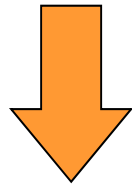
・ロシアにおけるイブラヒム

- 1905年ロシア革命とムスリム・ジャーナリズムの展開
- 改革主義のジャーナリスト『ウルフェト紙』



・ 1905年革命後の
ロシア・ムスリム民族運動の指導者

- ロシア・ムスリム大会



- ムスリム連盟 Ittifaq al-Muslimin
- ロシアの国会におけるムスリム会派

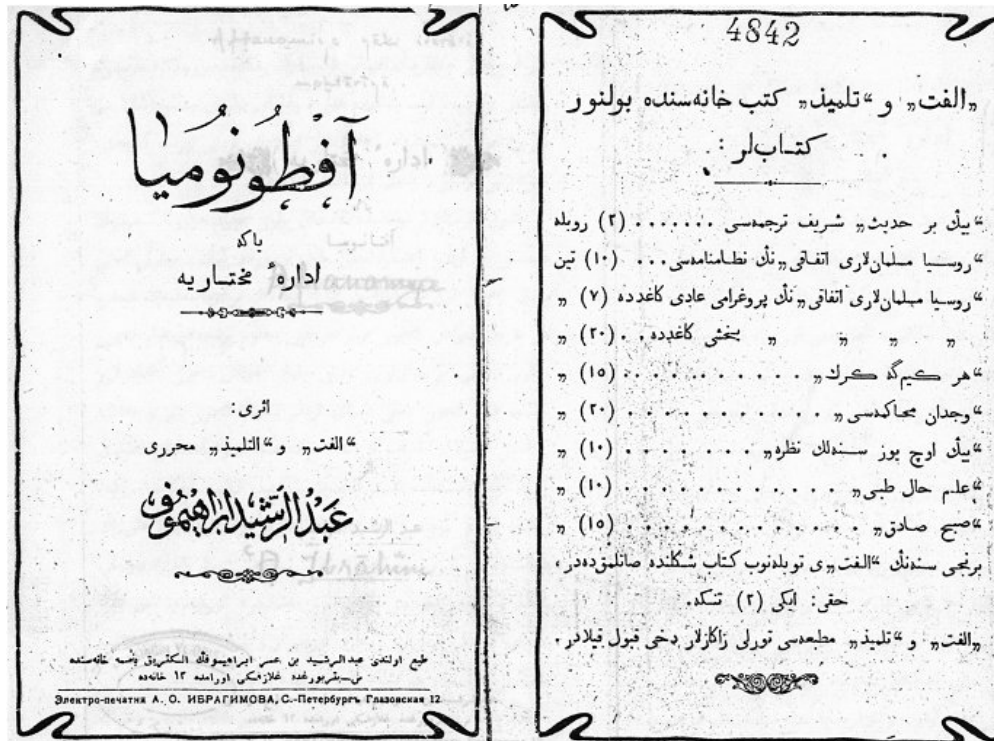
・イブラヒムによる ロシア・ムスリムの自治構想

- *Aftonomiya yake idare-i muhtariye* (Sankt-Peterburg, 1907)

- 帝政の反動と
運動の挫折



- イスラーム世界を
巡る旅



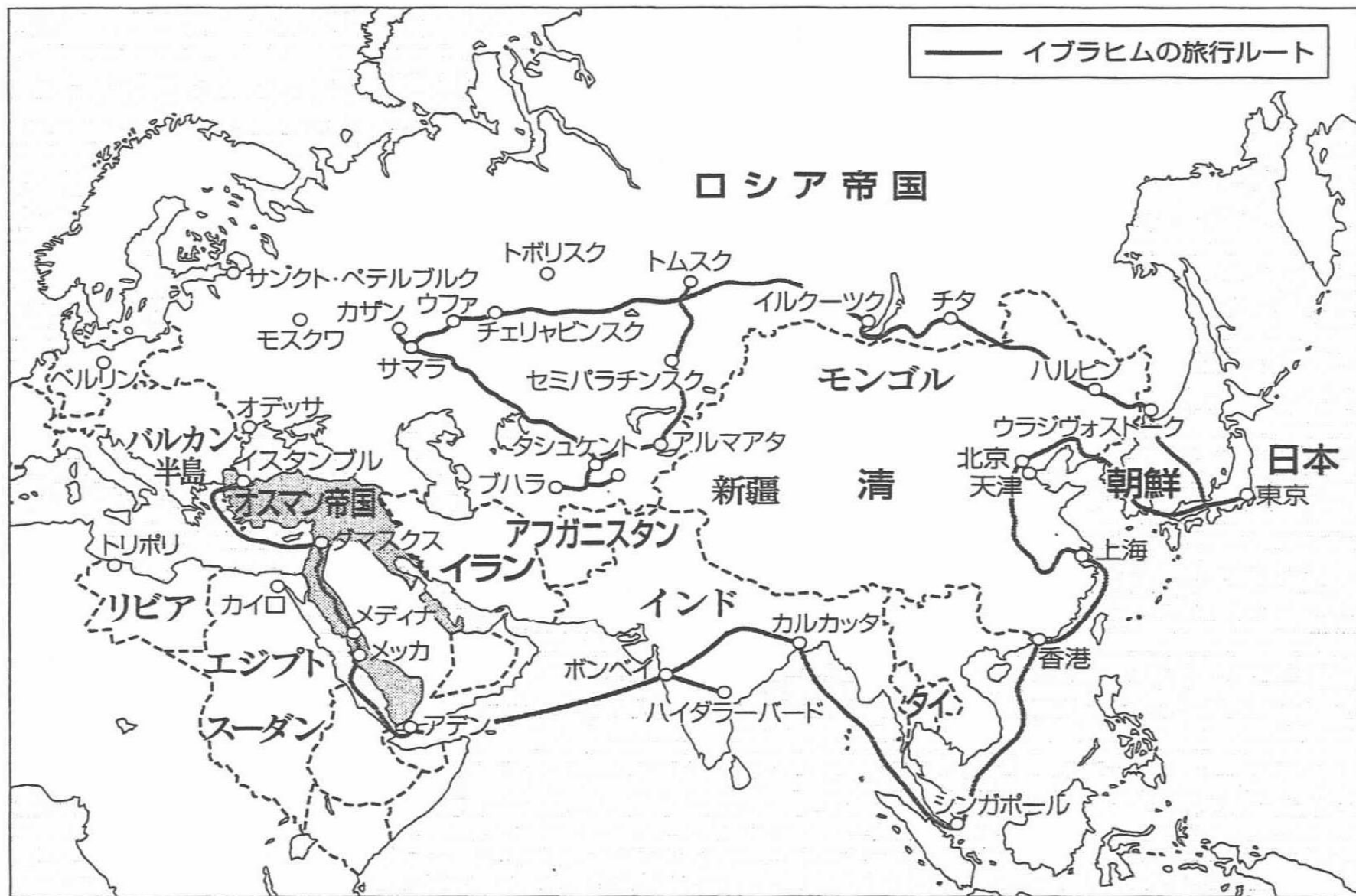


図1 イブラヒムの旅行ルート

・来日したイブラヒム

- 日露戦争(1904-1905)における
日本の勝利に触発
- 1909年1月 ~ 1909年6月
 1. 日本と日本人の詳細な観察: 庶民から大臣まで
 2. 日本の急速な発展の要因
 3. 日本人の美德と「民族精神」の護持

・ムスリム読者への日本事情の紹介



修習の新聞書を讀上げたる注意の激發的
價間に神が舞ひたる記者は若し請ふべく
得てと馴の頭を立直しつ逆變的に却て記
者より新聞を運發して大橋下の如き氏の
談話を獲得せり曰く

▲あゝ亡命の報答民 拙者はマホメツ
ト教の熱心なる信者である元來
拙者は露國に國籍を置きは置も
の、歐羅巴諸國と西比利亞と
の境域になつて居る土耳其に近
の部落に住んで居るもので其昔
拙者等は實に堂々たる土耳其國
民であつたものですが露土戰爭
の結果は拙者の様な露國國民を
作りましたです拙者の血脈に
は幾多聖人の血脈が沸
騰して居ります拙者のエルフェ
ット新聞が百折不撓の元氣を以
つて急進主義を鼓吹するのに神
經質なる露國政府は遂に櫻毛を
振つて到頭離散を命じましたが拙者は之
れを機會として曾て亞非利加に徒歩旅行
を試みた様に再び東亞漫遊を企て日本に
は一ヶ月許り滞在の見込で次で支那へ渡
航する筈であるが支那の内地は無論又々
徒歩旅行をする筈です其の目的

عبد الرشيد ابراهيم

やうぢやないか」と云ふ「サウ〜妙案〜」と一同が賛成する。誰か「佐々木君はどうだ、君にも分らんか」といふと、「イヤ僕にも之は……」と云はせも果てず「併し誰にも分らんと云ふ事が慥かになれば、君は何とか理窟を付けて讀むたらう」と擲論する。「そりや當りまへさ、併し此所は内輪同志だから、種まであかすさ」と呵々大笑する。

僕も一枚書いて貰つた（縮寫したのが是れである）音讀すると

オツトルブン アエリマ ウエリユ ビ

ツシン アオエリ フビベツシン

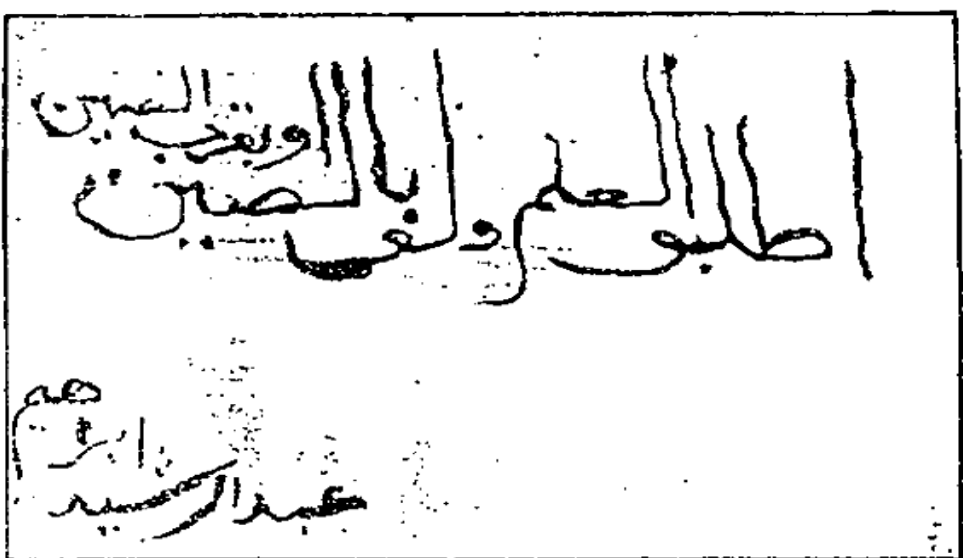
となるのぢやさうな、之を意譯すると

亞刺比亞にて學問を求むる事能はずんば、支那に求めよ、支那に於て求むる事能はずんば、支那附近に求めよ。

と云ふので、千年以前に「マホメット」の言つた言葉と云ふ事である。「支那附近と云へば元より日本を意味するので、教祖「マホメット」は、已に千年以前に真正の學問の根源は日本にある事を知つて居られたのです」と「イ」君はお世辭を付け加へる。「中々むまい事を云ふぢやないか」と皆んなが顔を見合せる。

其中に土爾扈特王も見えられる、會衆も揃ふ、愈々開會となつて例規の如く當夜の客たる「イ」君に演説を求めた。氏の演説は中々熱烈なものであつて、大に感動を興へたが、其主旨は氏の依頼に依つて公表する事を憚る。併し氏が來朝する

に至つた動機とも露國政府が氏等及になつて、従前とそれが爲めに各種族は最も深く感じた



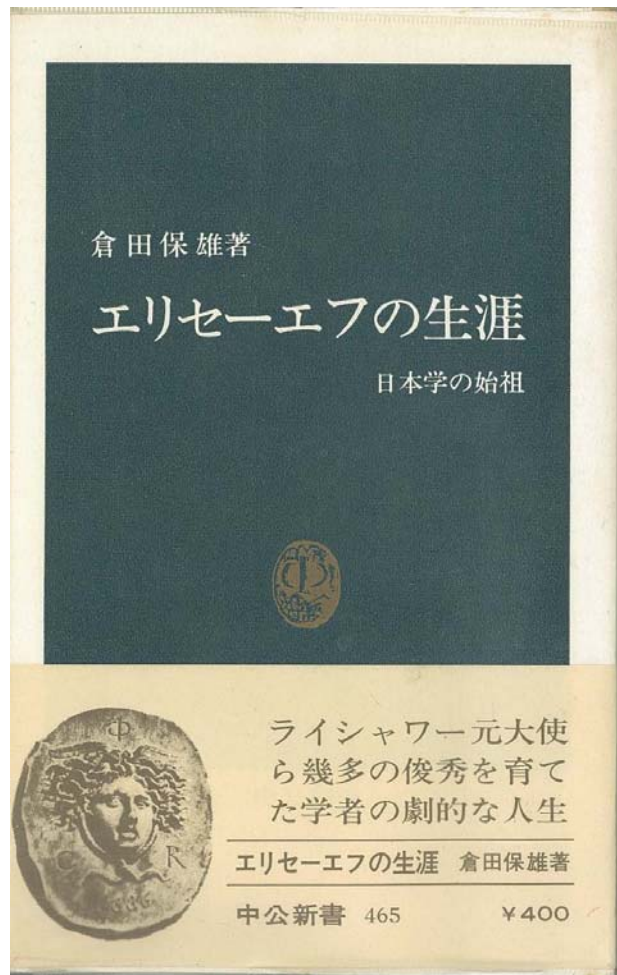
イブラヒム氏自題

な日本語で述べらる士、佐々木照山君の物質的文明ではのみである、王はヒム」君も充分此點例の變音を張揚げ

・東京帝国大学図書館にて



・ロシア人留学生との遭遇

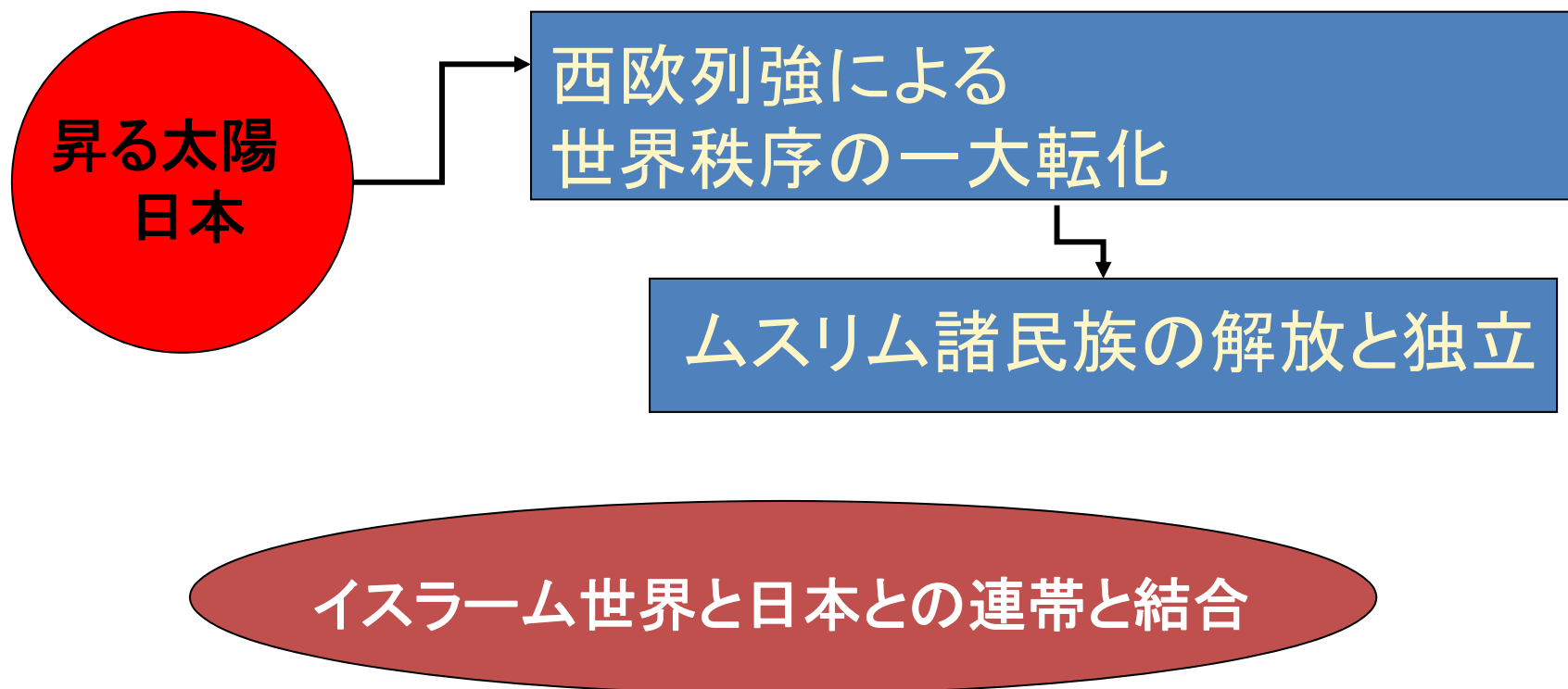


エリセーエフ(1889－1975年)
日本学の始祖



・イブラヒムの壮大な構想

従属を強いられたイスラーム世界の現状



・日本におけるアジア主義

- 西欧支配に対するアジア諸民族の統合

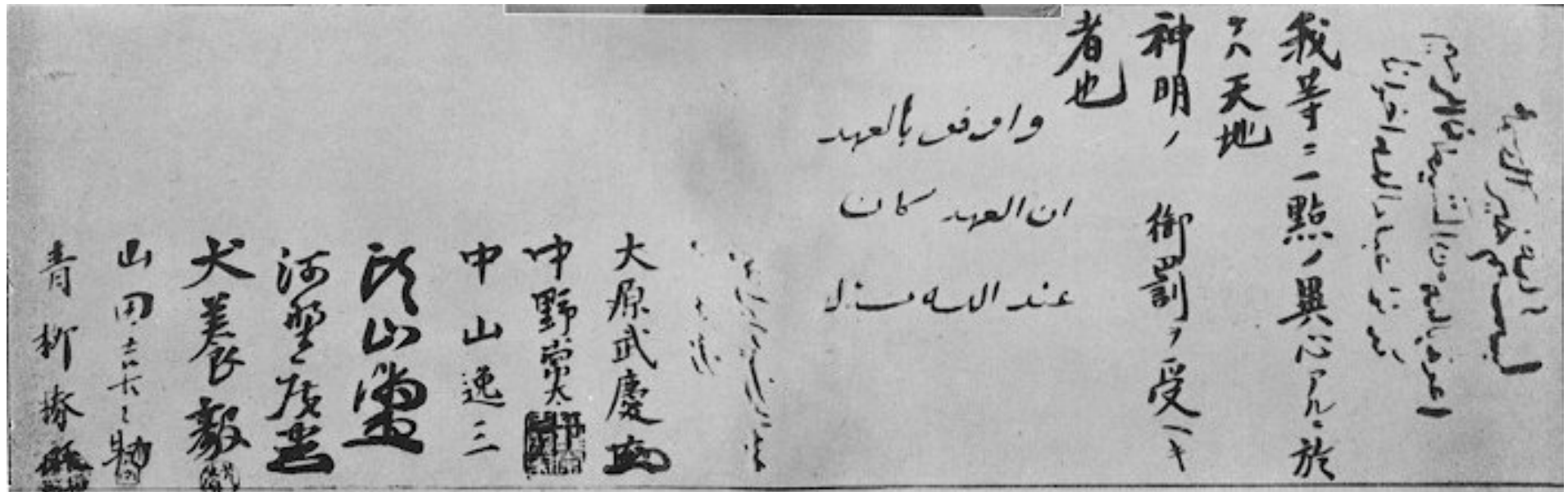
黒龍会: 頭山 満(1855-1944年)と
内田良平(1874-1936年)

- 日露戦争(1904-1905)
- 朝鮮併合(1910): 伊藤博文
- 中国革命への支援: 1911年の辛亥革命



・亞細亞義会

1. 1909年6月7日 有志により結成
2. アジア主義者と陸軍参謀本部



- ・ 日本陸軍とイブラヒム：宇都宮太郎日記
- 1909年5月8日：大原武慶来、露国帰化韃旦人アブジュラシット・イブラヒムの（元回教館長にて一度露の国会議員たりしことあり、革命思想懐抱の為め迫害を受け退去せるものにて、原籍は露国カザンの人なり）反基教同盟を主張し主意書を持参し謀る所あり、余の意見を授く。但し余は或時機までは直接には面会せず（235－236頁）[5月10日、再訪]。

・宇都宮太郎日記より

- 1909年6月6日：歩兵大尉松井石根、歩兵中佐三原辰次（露の亡命カザンの韃靼人イブラヒムを繋ぎ置く為め大原武慶に本日金三百円を渡すために招致。この金は三原保管の別途資金にて福島中将の管理せるものなり）
243頁

- 1910年3月14日：大原武慶を本部に招き、イブラヒムの其後の状況を質す。同人は目下メッカ付近に在り、三百円を与へ連絡を維持する積なりしに、金子丈は大原受領せしも其後のことに付き何等報ぜざりし故質せし次第なり。余の胸中にては、イブラヒムの人物素性も不明なれども、果たして出来そ一ならば、ファドリー等と共に他日回教徒操縦の道具に利用し、耶蘇教国と対抗の或る場合には利用し得る如く為し置かんとの考なり。321頁

山岡光太郎著
家永豊吉著

アラビア縦断記
西亜細亜旅行記

異域叢書

青史社

- ・日本人最初のメッカ
巡礼
1909(明治45)年刊

薄氷を履むの思

シエイフ
ムラード
氏の庇護

ムラード
氏の説法

にして、予としては此の行薄氷を履むの感なくんば非ざりしなり。幸に終始自重の態度を以て彼等に臨みしが故、所謂柔能く剛を制し無事入府せりと雖、既にメツカは神都なり、苟くも怪しむべき張本人、傲然日夕拜殿に出入するを目撃するに及むでは、之れを等閑視する能はざるは、法王一門に於て最も然らざるを得ず、然れども名聲藉甚たるシエイフ、ムラード氏の庇護の下に在り、氏と共に日夕拜殿に出入するが故に、多少の疑念を晴らせしも、ムラード氏元より異人種に屬し、全然彼等一門とは同心一體に非ず、豈多少の疑惑存せずとなさんや、果然予の假寓以來ムラード氏は同行者の予に傳授せる、速成的讀經法禮に満足せず、熱心予を誘掖指導すること、他事ならざる如きものあり、之れが爲め幸に入府後數日にして、回教の概念にも通じ、讀經法禮の意味も解し得て、眞正教徒と伍し寸毫も彼等の疑念を生ずるの餘地なからしめたるは、氏に負ふところ寔に大なるものあり然りと雖、一旦予にして神府に於て、不謹慎の舉動を曝露し、彼等猜視の焦點たらんか、氏亦同罪を以て斷頭臺上の露たりしやも、未だ計り知るべからず、當時氏の苦衷察すべきもの多々ありし也、果然法王一門の面前に於て、試験的厚遇を蒙るに及ぶや、入殿前氏は面色を正しうし、本日は貴公の最も慎重の態度を取らざるべからざる一大吉日にして、且



3. 『イスラーム世界』(1910年) の反響

- イスタンブル留学中の中央アジアの
改革主義者フィットラトの『争論』1911年
- ティフリスの風刺雑誌
『モツラー・ナスレッディン』

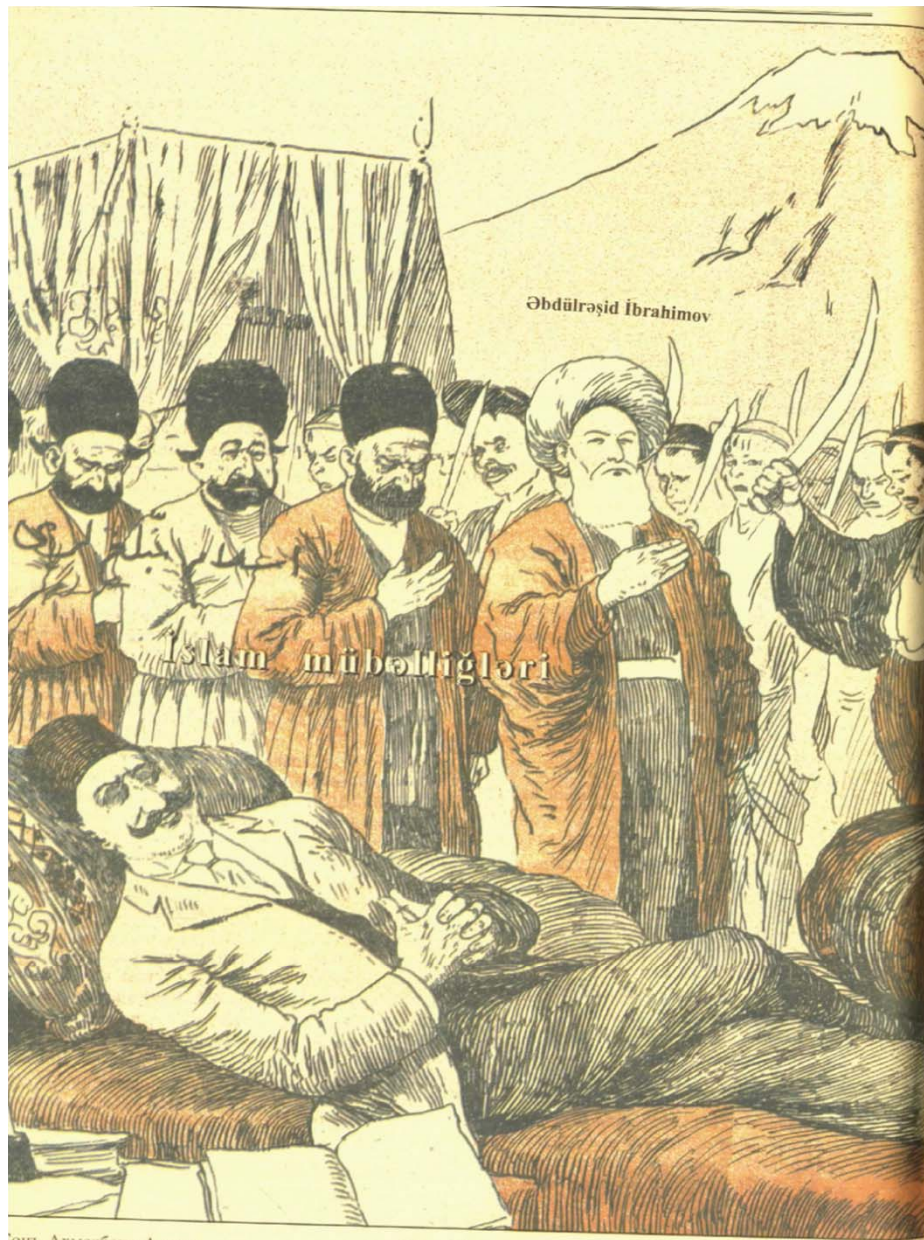
・『争論』に現れるイブラヒム

- ノガイ人のアブデュルレシト・イブラヒム師は、自宅からわずか12ルールを懐にただけで、イスラームの統一をうち立てるために、はるか中国、日本まで赴き、日本の首都東京では数名の貴顕をムスリムとなし、イスラーム結社まで開いたとのこと、これぞイスラームへの奉仕以外の何物でありましょうか。また、その威厳に山も震える日本の大臣は、その余暇を庶民の児童の教育にあてているとのこと。

・ウズベク語訳における改変

- 1911年に亡くなった有名なトルストイの美德と善行、ひたすら人類の幸福のためになされた貢献を知らぬ者はこの世にいないと言っても過言ではない。この賢者にして哲学者には、百を超える著作があり、そのほとんどはヨーロッパ諸語に、またいくつかはアラビア語、トルコ語、ペルシア語にも翻訳されている。

ウズベク語訳、タシュケント、1913年、15頁

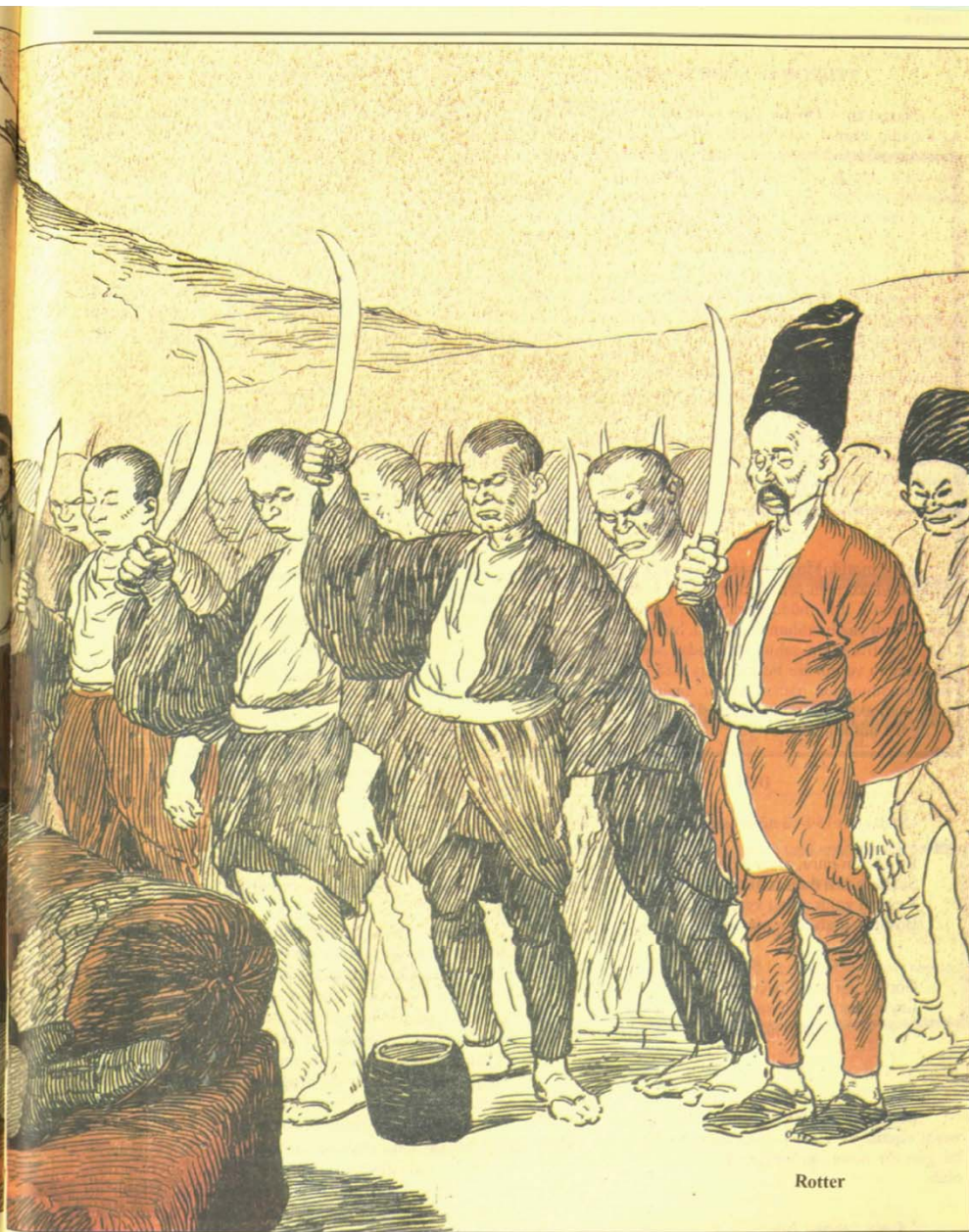


Əbdürəşid İbrahimov

İslam mübəlləgləri

Сонъ Ахмедбека Агаева.

Əhməd bəy Ağayevın yuxusu.

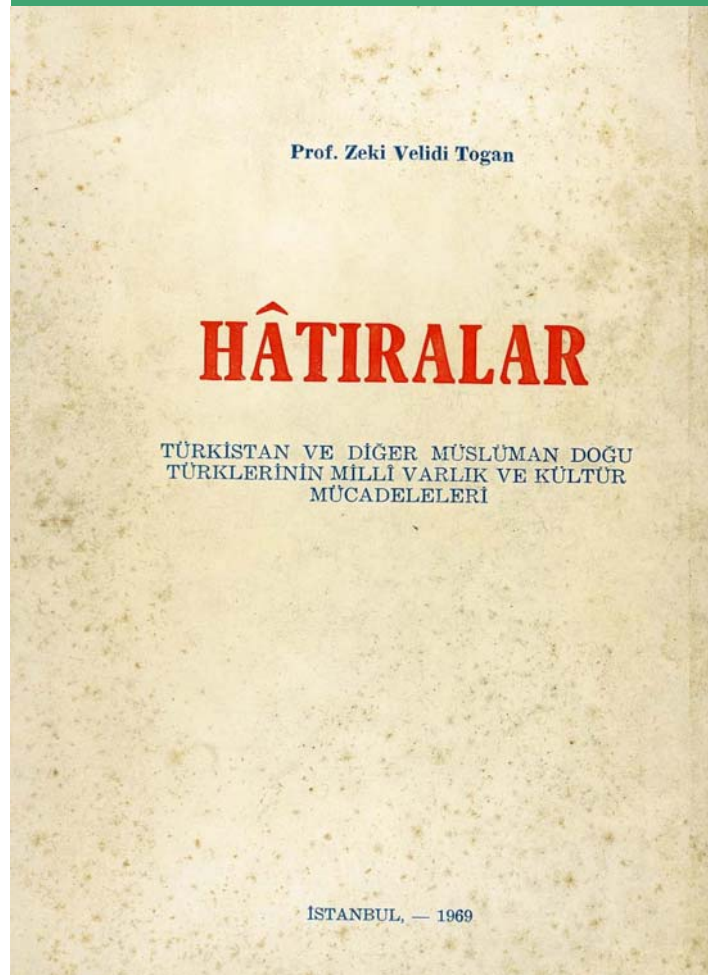


Rotter

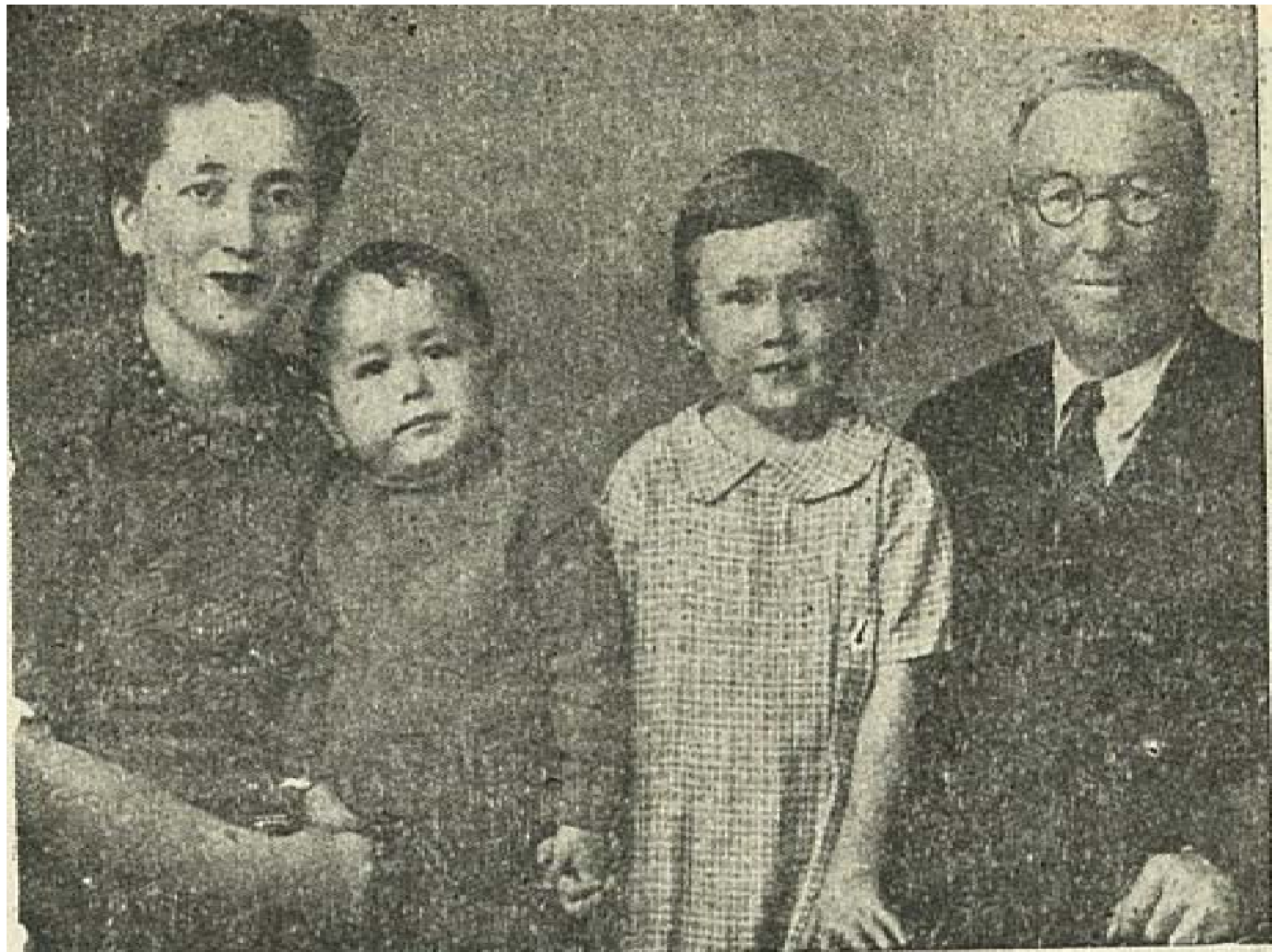
Японія исламı qəbul edəndən sonra

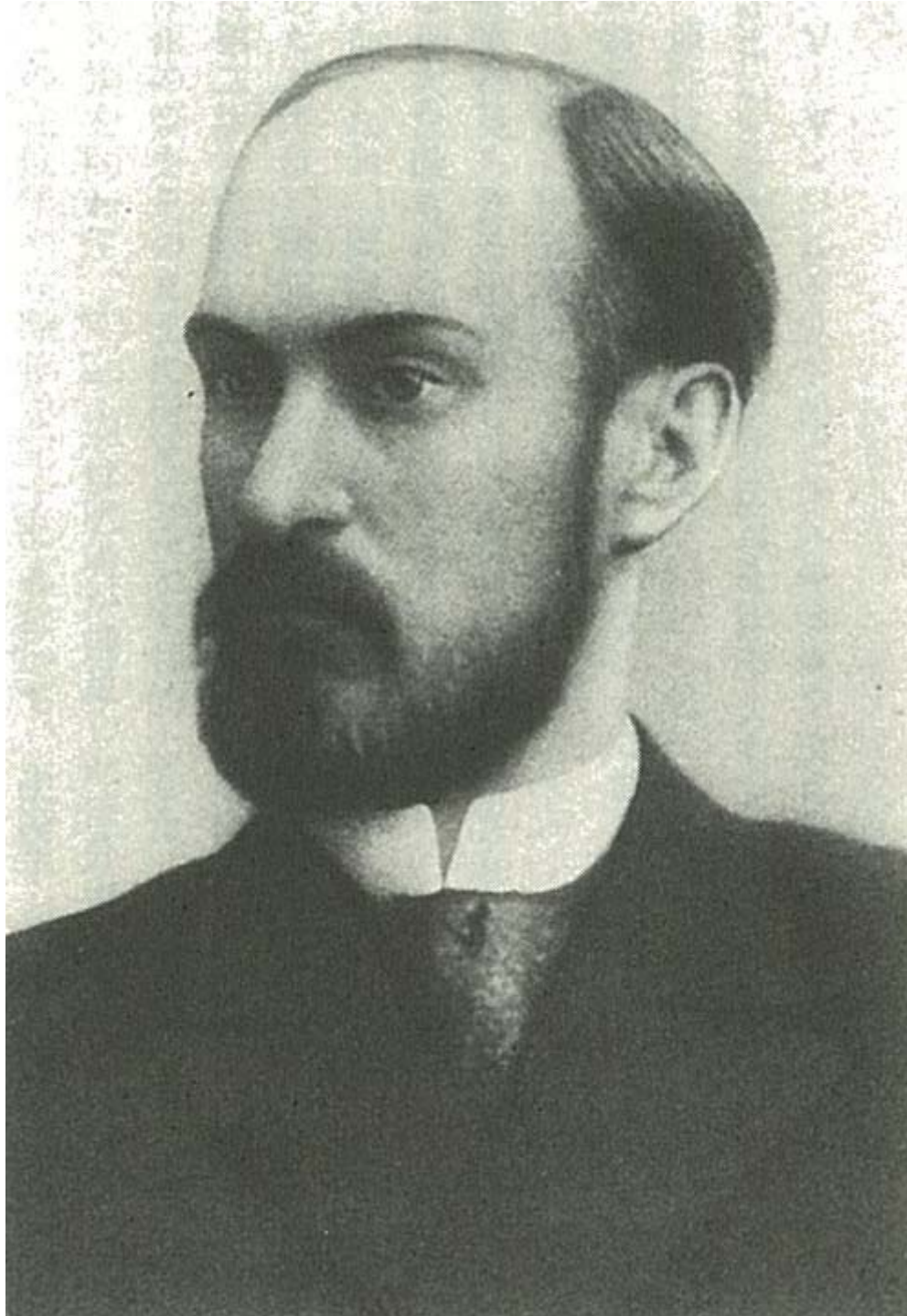
Булуня Японија по пријатию ислама.

4. 二人の亡命者： イブラヒムとトガン



- ・トガン(1890-1970年)
ロシア領南ウラル地方出身
トルコ系バシキール人
父はイブラヒムの知友
カタノフ文庫の移送
ロシア革命後に亡命
イスタンブル大学教授として
活躍





・バルトリド(1869-1930年)
ロシア, ソ連の指導的な東
洋学者, 青年トガンの師匠

1926年イスタンブル大学で
集中講義

『中央アジアのトルコ系諸
民族の歴史に関する12講』
(トルコ語, 1927年)

東洋文庫 805

トルキスタン文化史 1

V.V.バルトリド
小松久男 監訳

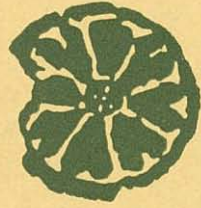


平凡社

東洋文庫 805

トルキスタン文化

V.V.バルトリド
小松久男 監訳



IBN FADLĀN'S
REISEBERICHT

VON

A. ZEKI VALIDI TOGAN

DEUTSCHE MORGENLÄNDISCHE GESELLSCHAFT



KOMMISSIONSVERLAG F. A. BROCKHAUS

LEIPZIG 1939

DEM ANDENKEN
MEINES LEHRERS UND FREUNDES
WILHELM BARTHOLD

・イブン・ファドラーンの
旅行記に関する
トガンの博士論文



*Engel doston
Masao Moriya
Natura album*

*2.11.95
5.6.95*

- わが友，護雅夫へ，
記念として
日本の指導的なト
ルコ学者（1921-96
年）

東洋文庫 789

ヴォルガ・ブルガール旅行記

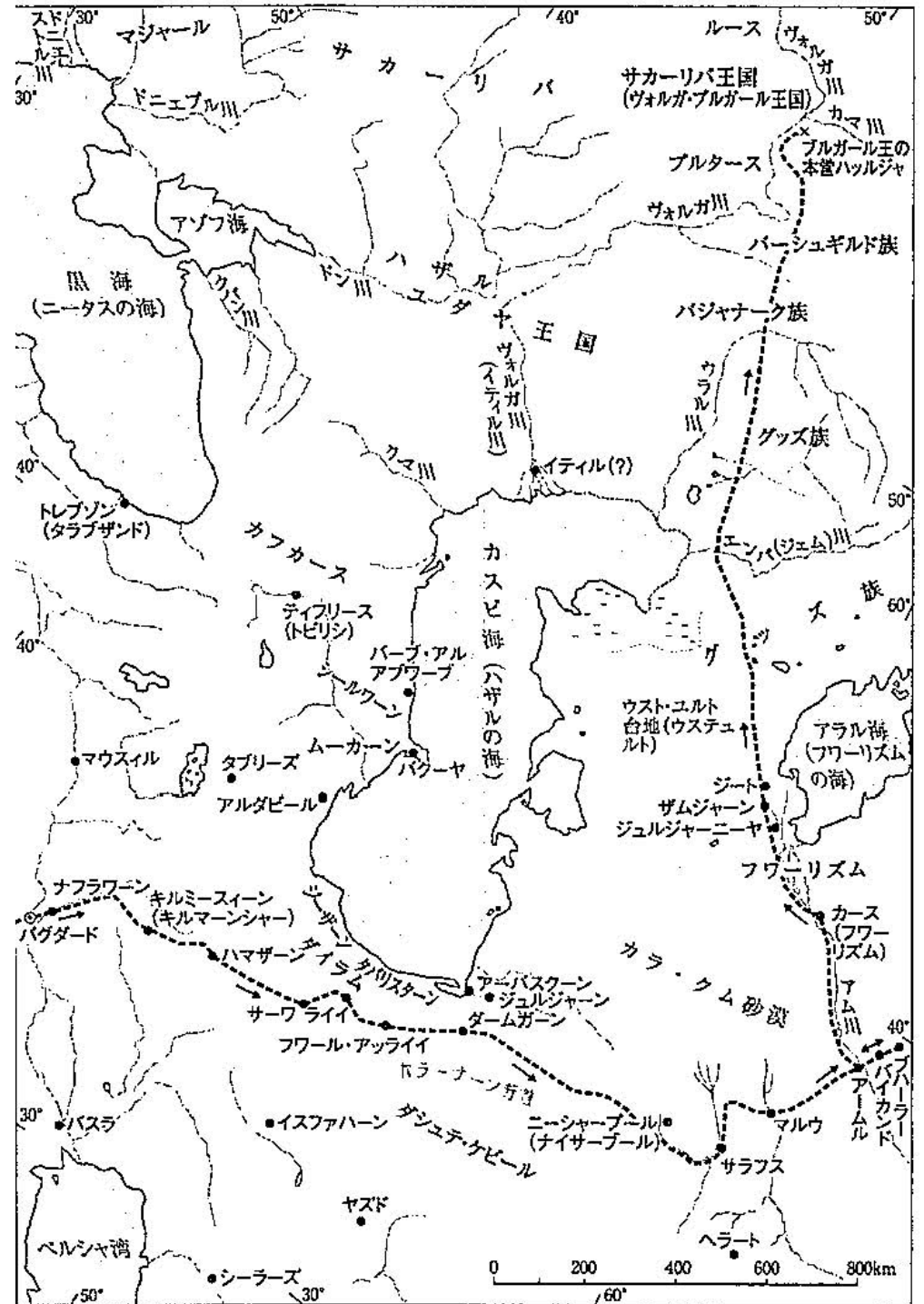
イブン・ファドラーン
家島彦一 訳注



10世紀、ヴォルガ・ブルガール王国に派遣されたアッバース朝の使者イブン・ファドラーンが残した、北西ユーラシア民族の風俗・習慣を活写した第一級のイスラーム地理書。40年余の研究を踏まえた校訂・訳注を付した決定訳。

定価：本体3,000円（税別）

歴史・中東・中央アジア



イスラームを知る 5



濱本真実
Masamune Hamamoto

共生のイスラーム

ロシアの正教徒とムスリム



山崎出版

・ロシアとイスラーム地域
1000年を越える関係

イスラーム地域研究
の課題
2008年カザン会議



I. Волго-Уральский регион в исторической и региональной ретроспективе

II. Между Российской и Османской империями: мусульманская мобильность в новое время

III. Политика лояльности/нелояльности как посредник во взаимоотношениях с государством

IV. «Мусульманский вопрос» внутри и вне СССР

V. Национальные идентичности в Советском Союзе в послевоенный период

ISBN 978-5-02-036455-4

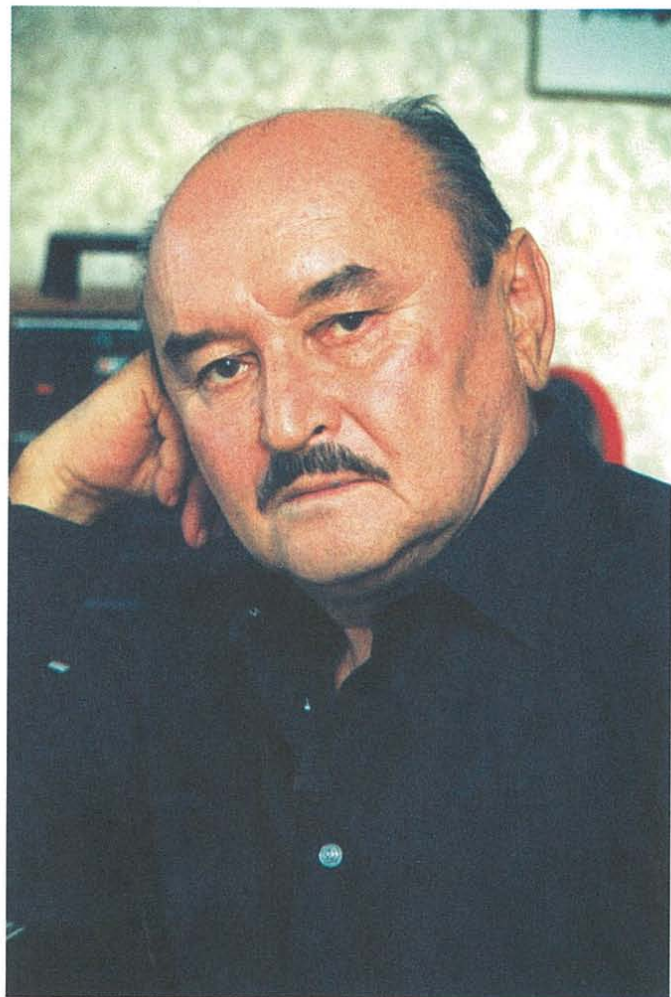


Волго-Уральский регион в имперском пространстве XVIII—XX

Волго-Уральский регион

в имперском пространстве XVIII—XX вв.





Миркасыйм ГОСМАНОВ



ГАСЫРДАН-ГАСЫРГА

*Professor
Komatchi Bege
irtiram ile*

TKH-S.TKH

КАЗАН
ТАТАРСТАН КИТАП НӘШРИЯТЫ
2004

19.09.07

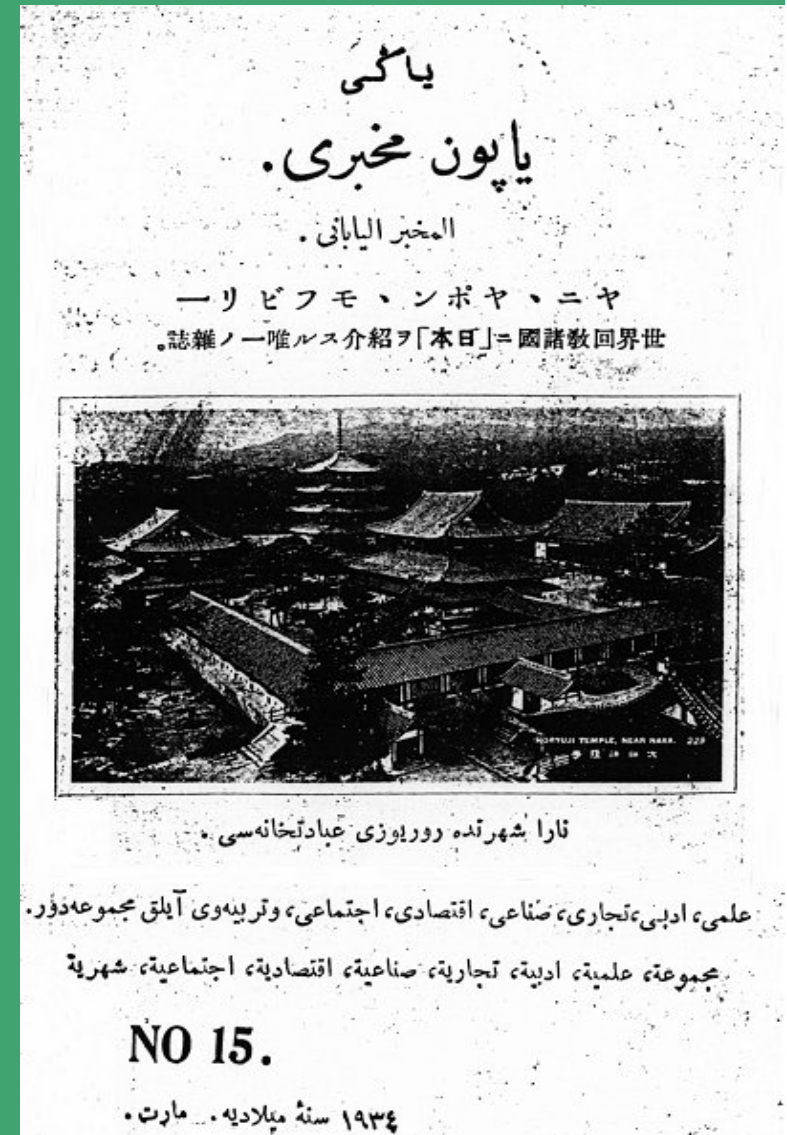
5. 再来日したイブラヒム

- 『新日本通報』に論説を寄稿
「アル・ジハード(聖戦)」

(1933年11月)

来るべき戦争における
日本人との共闘の必要性

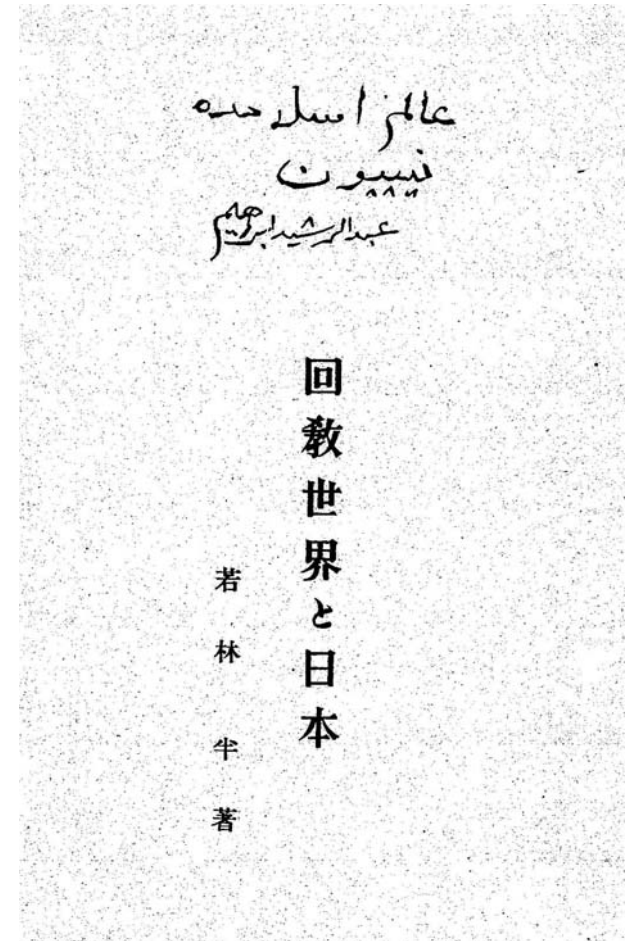
このジハードはすべてのムス
リムにとって義務であること





・東京モスクの落成
代々木, 1938年

イブラヒム, モスクの
イマームに



- 大日本回教協会(1938年)
- 戦時中の南方向け宣撫映画『東京の回教徒』への出演(1944年)



司馬遼太郎
歴史歓談

中央公論新社
2000年刊

・イブラヒムと井筒俊彦(1914-93)

- アラビア語とイスラーム学の手ほどき
1937-38年
- ムーサー・ビギエフ(1875-1949年)
の個人教授

ロッパ諸国の植民政策によって四分五裂してすっかり無力になってしまっていたイスラーム諸国を統合し、またサラセン帝国の栄光に戻そうというイデオロギーで……。それで頭山満（とうやまみつる）とか右翼の主人と親しく、軍部の人たちとしょっちゅう会合して、何か計画を練っていたらしいんです。

ですから、アラビア語を日本人に教えるなんてことは、問題じゃなかったわけです。だけど、こちらがあんまり熱心だったので、「それじゃ、一遍来させてみる。様子を見てやるから。どんなやつか見るから、連れて来い」ということで、行ったんですよ。案内する人は怖がって行かないものですから、私一人で行ったんです。

司馬 その人は、どこにいたのですか。

井筒 上野です。東大の構内をぬけて丘を下ると不忍池に出る。その近くの一軒の家に住んでいました。玄関の間に呼び込まれて座っていたら、奥の間からイブラーヒーム爺さんが出てきた。膝がちょっとふらついていましたけど、ピタッと私の前に座ったら、それはもうかくしゃくたるもので、偉丈夫なんです。ちょっと怪物みたいだった。青年時代の彼は『韃靼疾風録』に出てくる女真の英雄みたいに、さぞ威風堂々たるものだったことでしょうね。

司馬さんは『韃靼疾風録』などのなかで、よく「顔が二倍もあった」と表現されますが、まさにそうですね。切れの長いすごい目で人を見て、手に一冊の本を持っていたんですが、それを私に見せながら、突然「ハーザル キターブ ジャーア ミン アメリカ（この本は、アメリカから来たばっかりだ）」と古典アラビア語でいうんです。人の顔をジーツと見つめて。それがまた、黒豆を二つポンポンとはめ込んだような目なんです（笑）。おっかないんですよ。それで「ア ファヒムタ？（わかるかね）」というんです。「わかるかね」どころのさわぎじゃない。こっちは生まれて初めて懂



الله وارا اليراحون
HACI SEVKET ILMETI
ZAKIRCAN ve HACIYE
KAMERIYE OGLU
TOKYO DOGUMLU
1926. 223 - 1995. 11. 24
RUHUNA FATIHA

اللهم اغفر لي ولوالدي ولجميع المسلمين
OUR BELOVED MOTHER
KAMERIYE
DAUGHTER OF MULLA MUHAMMET
AND SEMINE BANO
BORN IN PERM
TURKISH NATIONALITY
March 1908 - 15 Dec. 1984
MAY SHE REST IN PEACE
REVNET AND DAUGHTER RAZIN

اللهم اغفر لي ولوالدي ولجميع المسلمين
ZALIMAN NEHMETKORUN YA
GIBI GIBI GIBI GIBI GIBI
BORN IN KIZILIRMAK TURKISH
NATIONALITY
BLESS ALLAH FOR HIS
SOUL BE REST IN PEACE
BORN 1931 DIED 1988
MAY SHE REST IN PEACE

اللهم اغفر لي ولوالدي ولجميع المسلمين
HACI SHEVKET ILMETI
ZAKIRCAN ve HACIYE
KAMERIYE OGLU
TOKYO DOGUMLU
1926. 223 - 1995. 11. 24
RUHUNA FATIHA

اللهم اغفر لي ولوالدي ولجميع المسلمين
HACI IMADETTIN KIZI
SEMINE BANO
BORN IN PERM
TURKISH NATIONALITY
March 1908 - 15 Dec. 1984
MAY SHE REST IN PEACE
REVNET AND DAUGHTER RAZIN

HACI SHEVKET ILMETI

おわりに

ロシア東洋学

イスラーム改革運動

